

特101

520

花
の
香

始



▲謝 告

▲本誌の花の香寫真帖發行に就ては多數藝妓諸氏の御賛成に依り爰に滞り無く發行するを得たるは社員一同深く感謝する所に御座候

▲本誌も前に廣告致し居り候通り縣下四方藝妓舞子を少々宛なりとも登載する事に定め居り候處何分初刊の事故へ混雜一方ならず加之印刷所にても種々な災厄を免れず遂に豫定期日通り到底叶はざる處より不止得初刊は申込順三分の一を登載する事に相成候

▲本誌の寫真は市中は本社囑託寫真師に出張撮影致させ候も遠方の分は寄集の寫真にて中にはPOPもあれば艶消もあり中には古きもの、新らしきもの、免に角種々様々の寫真にて製版印刷等に非常に困苦を重ね候も往々不完全を免れず候へば粹士諸君よ惡しき處は御推察の上只何事もとがめ給はらざらんことを

▲本誌現在の藝妓寫真募集高は實に四百二十六名にして他に羽衣新地取締八嶋三吉氏及び女紅場役員諸氏の御賛同に非常なる御配慮に依り特に本社餘興として神田祭、三國一、神下し、素ばやし、扇獅子の撮影せしものもあり其等は次號より追々登載する事に決定仕候

▲其他料理店、呉服店、履物店、粧化品店等より多數の廣告申込者も之有候へ共印刷の都合上遺憾ながら次號に讓

鮮明にし且つ又枚數も約二倍以上の豫定に御座候

花の香社 敬白



香の花

大正
7. 9. 16
内交

▲

書

香の

花

五犬交肉



五大
交肉

五と為夜
味ア乾
かえり月
入れにせ



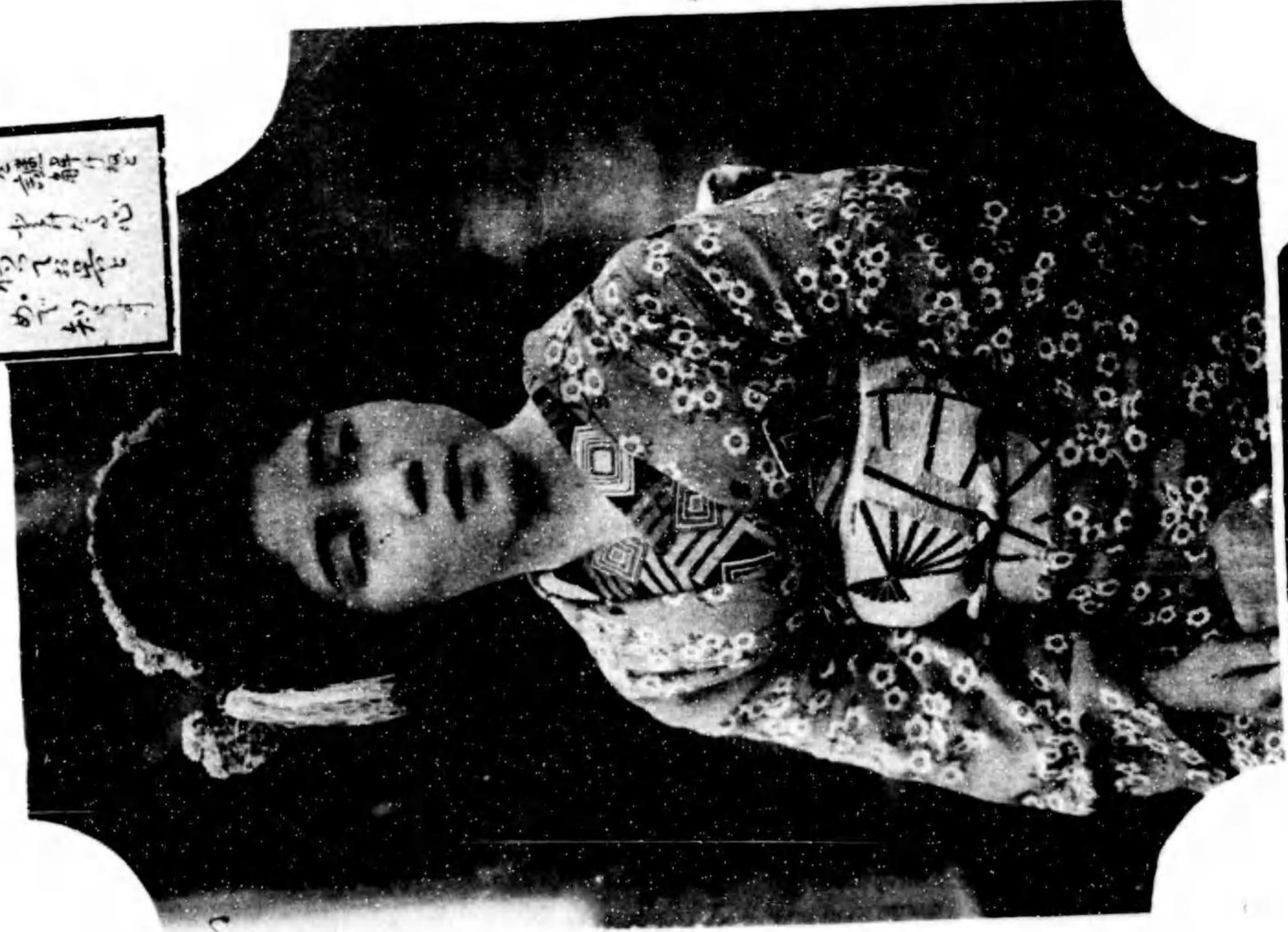
子政様紅萬葉子杉小

五と為夜
味ア乾
かえり月
入れにせ



万小様水膏岡高

五と為夜
味ア乾
かえり月
入れにせ



子めま様田家水羽

高岡屋八代重
羽衣古變攝



羽衣古變攝

高岡屋八代重
羽衣古變攝



羽衣古變攝



高岡屋八代重

今宵の
あはれ
時分



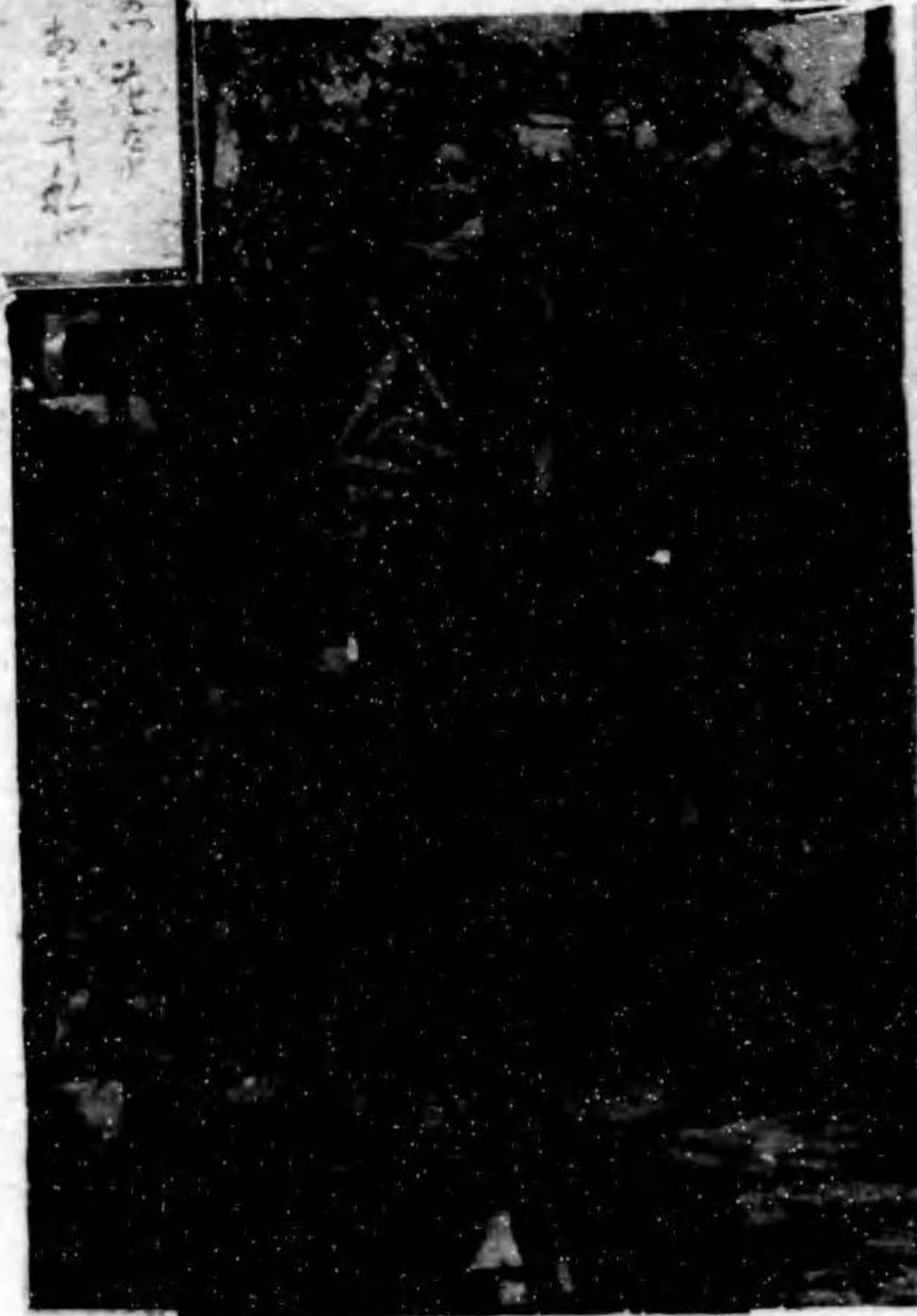
出町海川梅子

青雨の
中
いと
なほ
まはる
る



出町海川梅子

あはれ
な
まはる
る



松嶋楼

竹見
ゆき
あはれ
な
まはる
る



羽衣松嶋楼染子

みきとて
新しき
憎しき
現く月



か
か
か
か
か
か
か
か
か
か



子文 膝下木水羽

か
か
か
か
か
か
か
か
か
か

か
か
か
か
か
か
か
か
か
か



和孔山棟山浅門入



操正鏡

清き流に佇む
奥と
熱い
お母さん
お母さん



子清桂川小田和



鶴小桂川小田和

喜ぶ
小太の
二人が
実を
お母さん



高岡勇木樓金彌

金の光
お母さん
花に
お母さん



彌金樓木勇岡高

花を
あはれ
折るも
とまらぬ



直初橋八中衣羽

新やぶの真三
四十一合の花盛り
あはれあはれ
折るも
とまらぬ



子合百六一橋君思町出

元一夜
出来心



代百屋丁二十岡高

飛行機
乗る回
早の子



子合百家崎塩岡高

船の方
まこととき
迎へて嬉しい
人かま



力 一 樓海山 波井

のついでにか
ふたりかつい
深い田んぼ
はるか舟



子よの 樓海山 波井

あんなに
可愛らしい
お嬢さん
お見舞い
ありがとうございます



二 琴 家沼蓮 岡高

お嬢さん
お見舞い
ありがとうございます
お返しは
お返しは
お返しは



彌生・子の長崎本町出

あつこらいて
アイスクリーム
とかさやま
の氷



郎太、樓月清見水

一筋の光
私に照らされ
輝く風
影の初



時花桂亭古賀岡高

あつこらいて
アイスクリーム
とかさやま
の氷



来小定田新岡高

すゝめ方の
北風散る
あけいとも
あけいとも



鳥十 棟新日尾八

浪にあられて
面白き人
未だ楽しむ
群十鳥



子 浪 棟 櫓 門 大

月影の照して
花の影に
葉末の影に
集れ集れ
玉の影



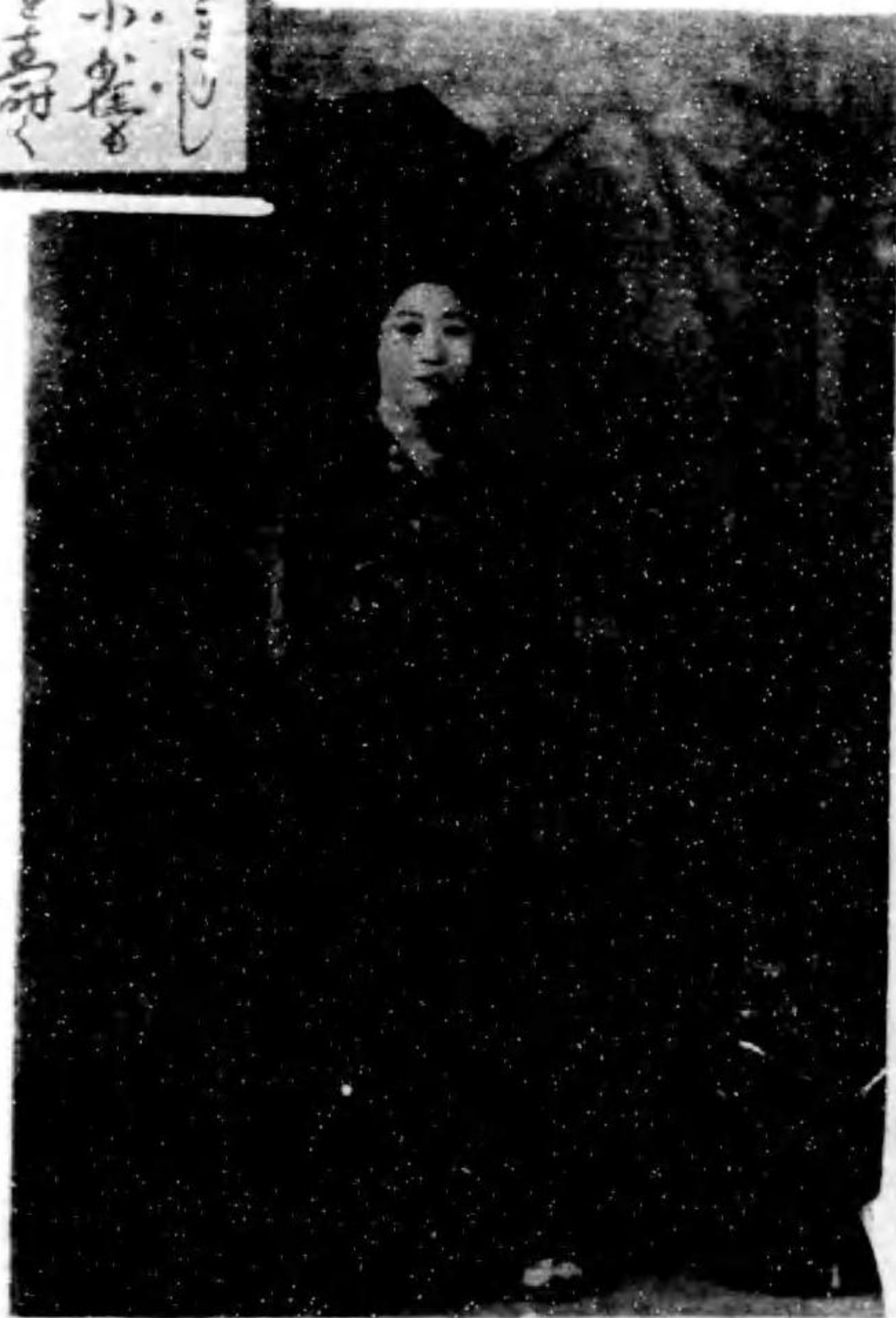
黄照橋島深衣羽

花の影に
玉の影
集れ集れ



双玉橋島深衣羽

針
あり小松
ちよと高研
二人中



雀小松溜大見珠

あはれ見せ
あの花園
高松



二人小松と大見珠

へいあいた
青田のい
まはる
まはる



子ねい家田新岡高

金木
高松



金小松島松衣殿



家 森 金



園 庭 同

私や元
二九
合
中



吉 玉 律 一 十 日 和

玉川清流
酒の中
吉玉律
海

八

見よも亦しき
アノ花園に
樂しく三探の
舞はあ



三橋本河町出

幸何の者
を一時と損
みするに
真徳八私
香海假合の
ふたり仲



八橋殿十橋買比町出

U.
美奈子
白橋
野田



園
中
桂

子羅代千花様



井田升樓子一人



羽衣草葉菊枝比子

おしり
おしり
おしり
おしり
おしり
おしり
おしり
おしり
おしり
おしり



大門口桂子つ子つ子

見考やいけ
聞かせてお
言はしがる
小北宮真



枝藤橋下木衣羽

松がんだ
ア、藤の枝を
千代と信じて
花をさす



蘇州橋下木衣羽

小石のうら
ア、赤み秋に
露の雫れを
未だ桂

舞之鶴
舞高砂歌
舞しつゆの宮
舞今宵
如音先ふり
舞人、舞性秋夜



蝶蘭。子文。静。鶴舞。樟葉。出

いとよしの
静は是れと
女心は思ふ
私、前、蝶
舞、赤、下
信、下、子、文、静

今宵かぐりの
アノ花の枝
活けし
糸の上



和十楼一と子

春をたよ
いき見
秋の光
あはれ



森家秋子

秋の光
あはれ
向ふ
思ひ



水見天賀楼子

心をかひ
暖め
解け
糸の水



高岡遠沼家小富

おのれ
あふた
子あし



子田長宗長田和



花梅宗長田和

小松
東北上

あつた
先々
梅の
五八



まつこ重藤町六

色香
花の



子花梅田松出戸

あれまあやむせ
ついでに花いさ
ほんのり様色
芳名をきいて
あつた月と
魂のすなわち中

かゝいゆ糸
あつた見せたい
二見浦



子芳・忠光 捧翼北町出



治代美 橘君思町出

此書如初音
漏れせし
あは一聲と
聞も娘しい
在れ橘



音初 橘君思町出

色けはなれた
宗統の面
云間から
お鏡



わさ一夜
信人を嫁
今百代
お鏡

代百・龍榮 橘野大見水

今度の秋
おまの跡よ
次舎の夜更方
秋の五竹



次膳梅野大見水

おまを待つ
大の若に事
すゝまお方の
二胡文子



子いす権権宮門大

奴いふ子
又と得たい
よい女



次膳梅野大

奴いふ子
二重の飾
解と得たい
二人の平



子代長梅本権大

通山平吉
内裏とて
逢瀬とゆ
沖井島



島十津原長田和

これと悟つて
とてを聞かぬ
憎らしか
ふれと号



古外木箱町出

今更素太郎に
乳出の郎
今に似合の
夫婦中



郎太橋雲錦町出

真の娘後人
守りかて親や
心に信岐の國
抱き振るが
誓ひしはけり
宿願とていかに



坂の子國家倉小町出

たれあめめい
 古れおまわれと
 知らん観て
 松年とまて



子めた勇熊町出

外郎いさか
 頼りておまて
 頼りておまて
 頼りておまて
 頼りておまて



聖小・人たは崎島鹿町出

鹿の子紋の
 姿を見守る
 顔ちり紅糸
 聖子
 喜ぶ姿を
 松月若お
 喜ぶ姿を
 うれしき
 うたは音



た人ほりりやみ・子鹿膝下故尾八

Handwritten notes in a box, likely identifying the subjects or locations of the photographs.

Blank box, possibly a placeholder for a name or date.

Handwritten notes in a box, likely identifying the subjects or locations of the photographs.



出町柏木文子・きさ



出町比翼様・笑子

Handwritten notes in a box, likely identifying the subjects or locations of the photographs.



井波山田屋・きさ

Handwritten notes in a box, likely identifying the subjects or locations of the photographs.



大門口・歌様・きさ子

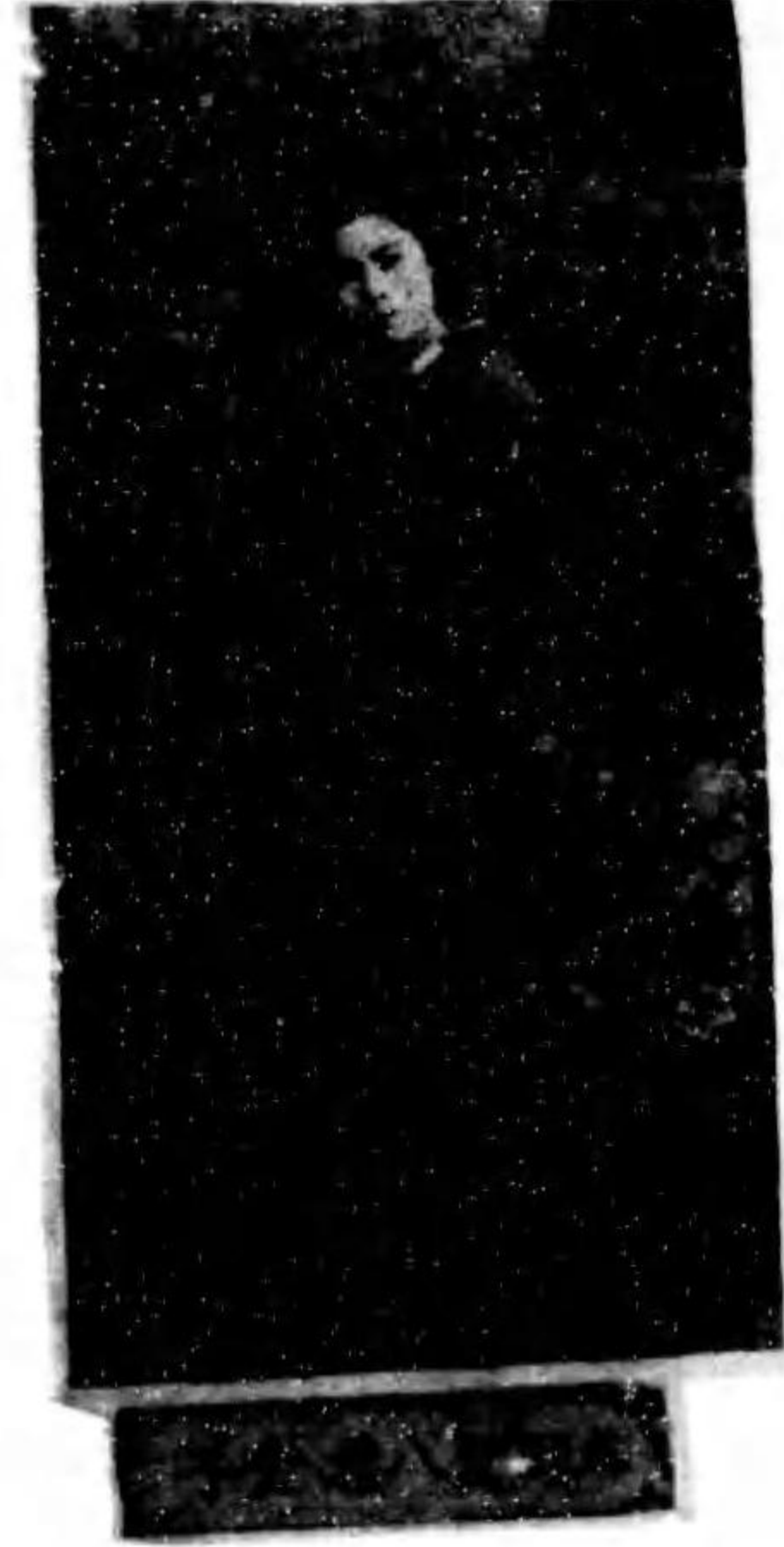


一、おとよ
心の帯
解るは
主ア人



梅香
二、おとよ
日母
未

出町錦雲橋梅香



和太市大田



和太市大田子

去つての
去つての
去つての
去つての
去つての
去つての
去つての
去つての
去つての
去つての



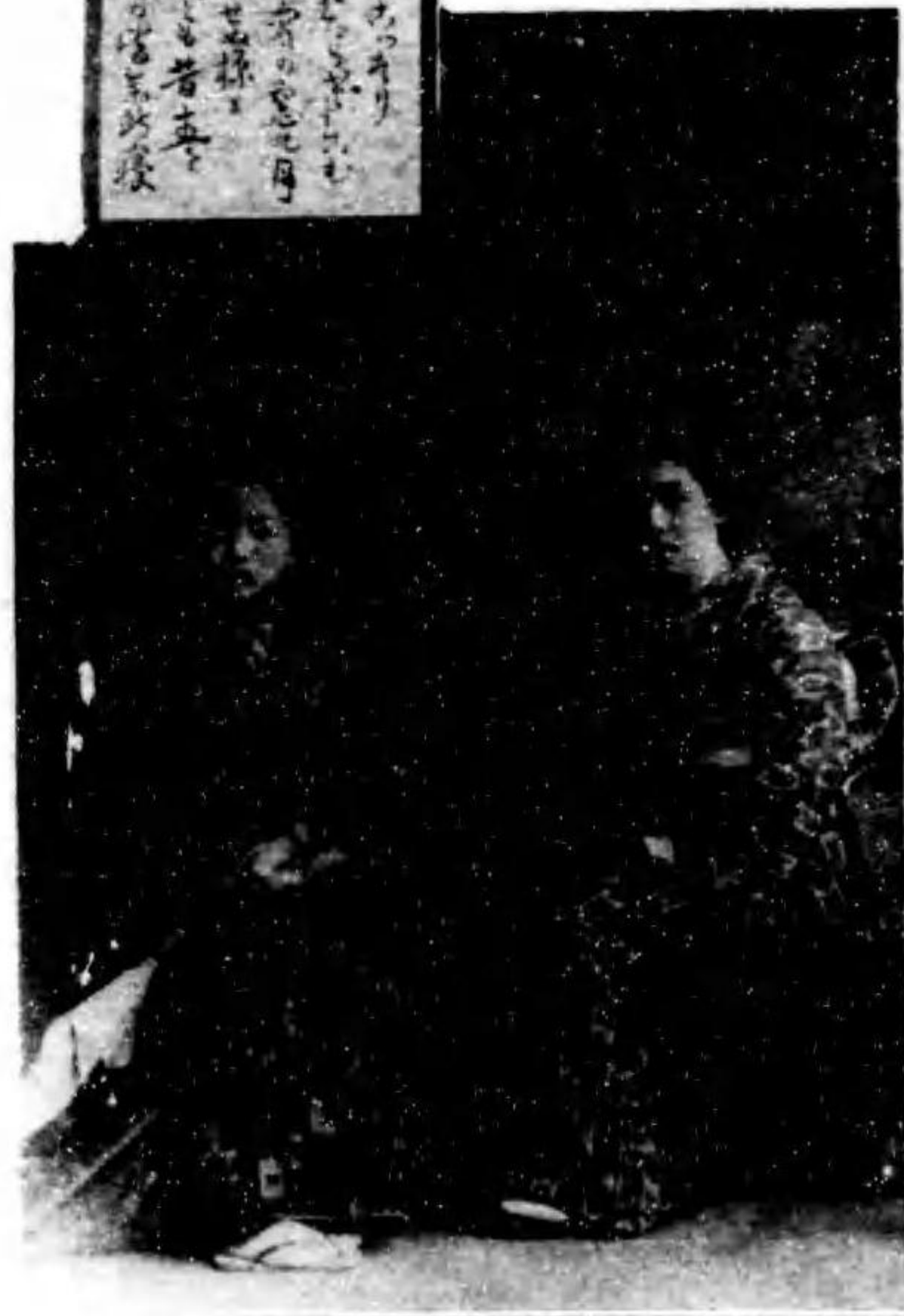
出町伊勢の浦駒宗

五と私
二存の松よ
たふり
はふり
たふり
はふり



出町伊勢の二葉

かきつばたの
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



八尾林松林小の対照

清き流れ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



八尾新橋の清子

117
6/25

大正七年九月一日印刷
大正七年九月十五日發行

編輯人 山岸作太郎
高岡市新横町千四拾壹番地

發行人 藤田磯吉
高岡市一番新町參拾四番地

印刷人 大垣慶次
高岡市小馬出町六番地

印刷所 大島寫眞製版所
高岡市櫻馬場

發行所 花の香社
高岡市御馬出町八拾八番地

終

